

(54) Pack agent

(11) 54-49334(A)

(43) 18.4.1979

(19) JP

(21) Appl. No. 52-115750

(22) 27.9.1977

(71) Ride Chemical Kabushiki Kaisya

(72) Masao Mori

(51) Int. Cl.² A 61 K 7/00

1. Title of the Invention

Pack agent

2. Claim

(1) A pack agent, characterized in that it contains, as main ingredients, a polyacrylate, a polyhydric alcohol and water.

⑨日本国特許庁(JP)

⑩特許出願公開

⑫公開特許公報(A)

昭54—49334

⑪Int. Cl.²
A 61 K 7/00識別記号 ⑫日本分類
31 B 0庁内整理番号 ⑬公開 昭和54年(1979)4月18日
7432—4C発明の数 1
審査請求 未請求

(全 3 頁)

⑭バック剤

富山市天正寺248番地

⑮特 願 昭52—115750

⑯出 願 人 リードケミカル株式会社

⑰出 願 昭52(1977)9月27日

富山市日俣77番3

⑱発 明 者 森政雄

⑲代 理 人 弁理士 萼優美 外1名

明 細 書

1. 発明の名称

バック剤

2. 特許請求の範囲

- (1) ポリアクリル酸塩、多価アルコールおよび水を主成分とすることを特徴とするバック剤。

3. 発明の詳細な説明

本発明は保水性と保温性に優れ、剝離の際も皮膚を痛めることのない改良されたバック剤に関する。

バック美容法は皮膚を一定時間皮膚で覆つて、その間に皮膚に栄養素と水分を補う一方、皮膚の血行を促して所定の栄養素の吸収を高めるマッサージ作用や皮脂腺、汗腺の機能を調節して皮膚になめらかさとうるおいを与える老化防止作用があると共に、バック剤をとり除く際皮膚面に付着した塵埃や皮膚面に分泌された老廃物を同時に取り去り、且つ老化した表皮の第一角質層を取り除いて新しい表皮細胞の形成を促す

新陳代謝促進作用をも期待できる効果的な美容法である。

従来この種目的のため市販されている多くのバック剤は、ポリビニルアルコール等の水溶性高分子物質の水溶液に保湿剤、増粘剤、アルコール、収れん剤、香料及び栄養素等を添加してなるもので、使用に際しては該バック剤を塗布し、約20分間放置乾燥させた後、フィルム状の膜をはがす方法をとっている。しかしながらこの方法は、一時的に皮膚に与えられた水分もフィルム膜を形成させるために短時間で乾燥させてしまうので、殆どバック剤本来の効果を期待できず、バック後化粧水等で肌をととのえ栄養クリームをつける必要があるという欠点があった。またフィルム膜をはがすとき皮膚とフィルム膜とが強く接合されているため表皮の角質層の深い部分も一部無理にはがし取られ、そのため皮膚が弱い場合にはかえつて皮膚を痛めたり、かぶれるおそれもあるため普通は1週間に1度の頻度でしか使用することができないという

欠点があつた。

また粉末状物質を水等で泥状にしたものやクリーム状にしたものを塗布し、バック後ふきとり洗浄する方法もとられているが、この方法は塗布が難しいと共にバック後のふきとり洗浄が面倒であるという欠点があり、従来法はいずれも満足すべきものではなかつた。

本発明は上記問題点を解消しようとするもので、ポリアクリル酸塩、多価アルコールおよび水を主成分とし保水性に優れ、剝離の際皮膚を痛めないバック剤を提供するにある。

本発明に使用するポリアクリル酸塩としては、例えばナトリウム塩、カリウム塩またはアンモニウム塩が挙げられ、例えばポリアクリル酸ナトリウムの場合には平均重合度は約10,000ないし100,000、特に約15,000ないし60,000のものが好適である。ポリアクリル酸塩の使用量はバック剤の全重量に対して約1ないし20重量%であるのが適している。

多価アルコールは本発明のバック剤の接着性

容効果を高めるためには種々の栄養素を含有させることができる。

本発明のバック剤は上記成分を均一に練合することによつて製することができ、得られた練合物をそのままバック剤として皮膚に塗布することも、布、紙または不織布またはその他の支持体に展延し、ついで練合物の露出面に剝離用フィルムを貼着して、皮膚に貼付しやすい形に裁断し、使用に際しては上記剝離用フィルムをはがしてそのまま皮膚面に貼付することもできる。本発明のバック剤は上記したようにあらかじめ皮膚に貼付しやすい形に裁断した紙、布等よりなる支持体の一面上にバック素材を塗布し、該バック素材の表面を剝離用フィルムで被覆したフィルムの形としておくのが、均一な厚さで皮膚に貼付することができるので異なる厚さで塗布した場合のように皮膚が局部的に引つ張られる感じになることもなく、また使用に際しては剝離用フィルムをはがして皮膚面に一定時間貼付するだけでよく、途中で一時的にはがすこ

と保水性を高める働きをするものであり、例えばグリセリン、プロピレングリコール、ポリエチレングリコール、1,3-ブチレングリコール、D-ソルビット液等の1種または2種以上の混合物が使用される。これら多価アルコールの使用量は、多価アルコールの1種だけを使用する場合でも2種以上の多価アルコールを使用する場合でも、多価アルコールの合計重量がバック剤の全重量に対して約5重量%ないし70重量%であるのが適している。

水は皮脂腺、汗腺の機能を調節し皮膚の老化を防止すると共にバック剤に含まれる栄養素を吸収しやすくする働きをするものであり、配合される他の成分の種類および配合量などによつて種々の割合で使用される。

本発明のバック剤には、上記主成分に加えて粘度を高めたい場合にはメチルセルロース或いはカルボキシメチルセルロースナトリウム等のセルロース誘導体を、そして保水性を高めたい場合にはアルギン酸ナトリウムを、更にまた美

とも可能であるので使用法が非常に簡便である等の利点が得られる。

次に本発明の実施例を示すが、本発明はこの実施例に制限されるべきものではない。実施例中「部」は「重量部」を表わす。

実施例1～3

次表に示す成分を均一に練合して本発明のバック剤を製造した。

表

成 分 名	実施例 1	実施例 2	実施例 3
ポリアクリル酸ナトリウム	6 部	5 部	6 部
グリセリン	23 部	—	23 部
1,3-ブチレングリコール	—	20 部	—
カルボキシメチルセルロース ナトリウム	4 部	1 部	6 部
メチルセルロース	2 部	—	—
ゼラチン	3 部	5 部	7 部
カオリン	7 部	10 部	—
合成ケイ酸アルミニウム	—	—	5 部
アルギン酸ナトリウム	—	1 部	—
クエン酸	0.5 部	0.5 部	0.5 部
アラントイン	0.15 部	—	—
レシチン	—	微量	—
ビタミンA油	微量	微量	—
トコフェロール	—	—	微量
水	適量	適量	適量
合 計	100 部	100 部	100 部

上記実施例 1 ないし 3 で製造したバック剤を

顔面の皮膚に塗布して一昼夜放置したが、使用時間中を通じて適度な水分を保つと共に、顔面よりバック剤をはがす際に皮膚を痛めることもなかった。

以上述べた如く本発明のバック剤は、使用時間中を通じて適度な水分を保ち、その安定した保水性と保温性によつて皮膚の血行が促進されバック剤に含まれる栄養素が吸収されやすくなると共に、皮脂腺、汗腺の機能が調節されて皮膚の老化を防止し、また刺激的な増粘剤の添加や乾燥促進のためのアルコールの添加等の必要がないため皮膚に無用な刺激や抵抗感を与えず、更に剝離の際も皮膚を痛めることなく、皮膚面の塵埃、分泌物を取り除くと共に表皮の第一角質層のみをおだやかに剝離して新しい表皮細胞の形成を促進する等多くの利点を併有する。

特 許 出 願 人 リードケミカル株式会社

代理人 弁理士 専

優 美

(ほか1名)